

## 学ぶことに喜びを感じさせるための学習活動の工夫

内田 誠 司

1、はじめに

### (1) 研究の動機

生徒にとって「いま、学習していることが自分自身のこととしてとらえることができているだろうか。」「仲間の意見を参考にしながらも自分の考えをしっかりと持つことができるのか。」「こういった疑問をもとに、今回「命の尊さ」というテーマに向かって学習し、そこでの自分の考えを表現する学習を計画した。

### (2) テーマ設定の理由

今回「命の尊さ」という大きなテーマをもとに学習を計画したわけであるが、その理由を説明したいと思う。

私自身「命」というものについて考えさせられたのは、中学二年の時に祖父が亡くなったときであった。その当時は、「おじいちゃんが生んだんだな。」といったことぐらいしか感じなかったが、大

人になった現在改めて考えてみると、身近な人が亡くなるということとは、「命の大切さ」・「命の尊さ」ということについて、考えさせられるいい機会となったのではないだろうか。

戦後五十年が過ぎ核家族が進むなか、自分の身の回りの人間の「死」というものに直面することも無くなり、「命」について考えさせられる機会もほとんど無くなってしまったかもしれない。

そこで様々な状況下に置かれた人間が、死に直面する中で「命」というものをどの様にとらえているのかということに触れるなかで、自分なりに「命の尊さ」について考える機会となればと思いいこのテーマで単元を構成しようと思った。

### ① 単元構成について (資料1)

今回「命の尊さ」というテーマで単元を構成したわけであるが、この単元は三つの小さな単元から構成されている。

学 習 内 容	身 につ け さ せ た い 力
<p>⑦ 一 次</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「命の尊さ」についての学習の計画を知る。</li> <li>・「光る砂漠」(矢沢 幸著)を用いて学び方を学習する。</li> <li>・「命の尊さ」について、様々な作品から学ぶ。</li> <li>・図書館にて</li> <li>・調べ学習で収集した情報を整理し、全体学習で交流する。</li> <li>・一次を終えて「命の尊さ」に対する自分の考えをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を見通す力をつける。(ガイドンスプリントを用いる。)</li> <li>・作品へのアプローチの仕方を学ぶことができる。</li> <li>・必要な資料を見付ける。(意欲・理解の力)</li> <li>・必要な情報を選択する。(理解・選択能力)</li> <li>・仲間と共に学ぶ。(意欲・表現の力)</li> <li>・一次を終えて、自分の「命の尊さ」に対する思い(土台)を確かなものとする。</li> </ul>
<p>⑥ 二 次</p> <p>「大人になれなかった弟たちに・・・」を使い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦争という状況の中で育まれ、亡くなっていった命について、各場面ごとに読み取っていく。</li> <li>・「大切なミルクをぬすみ飲みしてしまった。」と告白する僕の、ヒロユキに対する思いを読み取る。</li> <li>・「僕はあんなに美しい顔を見たことはありません。」と表現する僕の、母に対する思いを読み取る。</li> <li>・「大きくなっていったんだね。」と言って初めて泣いた母の、ヒロユキに対する思いを読み取る。</li> <li>・一次・二次の学習を振り返り、「命の尊さ」に対する自分の考えをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・僕の中の二つの思いをとらえ、そこから生まれる思いが分かる。</li> <li>・母の家族に対する思いを考えながらその母を見る僕の思いが分かる。</li> <li>・弟の死を受けとめる母の思いが分かる。</li> <li>・学習の振り返りとして、学んだことを生かして自分の考えを、表現としてまとめることができる。</li> <li>・単元を通して学んだことをもとに、今自分が考えていることを力いっぱい表現することができる。</li> <li>・今まで学習して、残してきた自分の考えを重要な情報源として活用することができる。</li> <li>・仲間との交流の中から、新たな情報を得ることができる。またその情報を積極的に自分の作品の中に生かすことができる。</li> </ul> <p>・繰り返しの表現          ・「-」や「・・・」の効果          ・倒置法・擬音語          など言葉にこだわって本文を読み進むことができる。</p>
<p>④ 三 次</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「命の尊さ」についての自分の考えを形あるもの(詩)として残す。</li> <li>・さらに良いものとするために、自分の詩を仲間と交流する。</li> <li>・出来上がった作品を応募する。</li> </ul>	

第一部として、矢沢宰の詩を扱い、「病気に苦しむ」という状況に置かれた人間の「命」に対する思いを探る。その学習を通す中で自分の「命」に対する考えの輪郭を明らかにする。そして、「病気」という状況以外に置かれた人は命に対してどんな考えを持っているんだろう」ということを、図書館の資料を利用して探る。

第二部として、教科書教材「大人になれなかった弟たちに……」を使って、自分たちが学習して明らかになった「命」に対する思いと、筆者の思いを比較しながら読むことで、より自分の思いをはっきりとさせる。

第三部では、第一・第二部で学習してきたことをもとにして、「命の尊さ」に対する自分の考えを、詩という表現形式を用いて表現する。

## ②学習の出口として「詩」を取り扱う理由

今回、学習の出口として「命の尊さ」に対する自分の考えを、詩で表現するという形式をとった。では、なぜ「詩」なのか。そのメリットとして以下の三点を挙げる。

・短い文で表現できる。

(誰でも抵抗なく書くことができる。特に今回は「命の尊さ」

という、テーマにそったものという限定をつけるために、何を表現するかが明確になる。)

・「詩」の良さとして、誰もが自然と作品に感情移入することができる点が挙げられる。多様な表現が可能であるため、個性を生かすことができる。

・これまで学習してきた表現方法を用いることができる。

このような、多様な表現を可能にする詩作を通して、自分の「命」に対する考えを表現させるのがねらいである。

## 2、研究内容

(1)生徒の思考の流れに重点を置いた指導の工夫

「命の尊さ」というテーマにそって、様々な学習材を用いて授業を展開していくことでの問題点として、生徒の思考が学習の中で「細切れ」になっていないかという不安があった。そのため、生徒が今考えていることを重視し、学習に生かしていけるための指導の工夫として以下の三点について研究した。

①事前に生徒の意識を調査する。

この単元に入る前に、生徒の「命の尊さ」に対する意識調査を行なう。そこでの結果により教師側だけで考えた学習計画に

生徒の意識を加えたものへと変更した。

②学習につながりや広がりを持たせるために

毎時間の学習に、つながりを持たせるために振り返りプリントの工夫や、振り返りで書いてきたことへのコメント、教師側の声掛けなどを工夫した。

さらに、素晴らし振り返りを書いている生徒を紹介する意味で「国語通信」を、発行した。

③生徒に学習の方向付けをするために

難しいテーマについて学習する際に、この時間ではどんなことを学習するのか、個人で学習する際に、自分の学習の仕方が正しいのか、といった学習の方向付けをするための指導の工夫。

(2)仲間との交流の中から表現を工夫する

この単元の第三部では、今まで学習してきたことをもとに、自分の「命の尊さ」に対する考えを詩で表現するという授業を行なった。そこでは、仲間同士で互いの詩を工夫しあわせた。

### 3、実践事例

(1)生徒の思考の流れに重点を置いた指導の工夫に関わって

①事前に生徒の意識を調査する

今回「命の尊さ」というテーマで学習するにあたって、事前に生徒の「命」に対する考えについて、アンケート形式で調査を行なった。

・「命」を、大切なものだと感じたことはありませんか。

ある 三十七名中 三十五名

・また、それはどんな時に感じましたか。

・お葬式などに参列したとき。

・飼っているペットが死んだとき。

・自分が事故にあったとき。

・テレビでニュースを見たとき。

(台湾で起こった大地震のニュースなど)

・エイズ関連の新聞記事を見たとき。

・「命」と聞いて思い浮かぶものは何ですか。

・一人に一つしかないもの

・大切なもの

・たった一つの宝物

など

・生命が始まるとき  
・心臓

など

以上のアンケート結果から考えてみると、生徒の「命」に対する関心の高さをうかがい知ることができる。また、その関心の高さは「自分の身の回りで起こった出来事から感じた生徒」や、「テレビや新聞などで知った生徒」など様々な意見があった。その反面、「命」そのものに対するイメージについては、それを答えている生徒は少なく、またその答えも「一人に一つしかないもの」・「大切なもの」・「イメージ画」など客観的で感覚的にしかとらえきれない生徒がほとんどであった。

そこで、この単元を学習していく中で生徒の客観的な考えを、より具体的なものにするために、具体的に考察できている生徒の考えを積極的に広めていく学習計画をし、指導の工夫を臨機応変に行っていた。

## ②学習につながりや広がりを持たせるために

一時間の学習をその時間のうちに振り返らせることは、学習の定着を計るうえで大切である。

しかし、その振り返りを読んでみると、「くができてよかった。」とか、「くが分かった。」など、「何が分かったのか」「何ができるよ

うになったのか」といった具体的なものが書かれておらず、回目の学習で自分が「何を学習しようとするのか」といったことを、見通すものがない反省が多かった。

そこで、生徒の振り返りの中で学習したことを具体的に振り返れているものや、前時とのつながりを持った振り返りができているものを、「国語通信」(「仲間の考えを取りこむ」として、紹介することにした。(資料2)

彼の場合9月29日の振り返りでは、「矢沢幸さんはどういう人なのか分かった」というパターン化された振り返りとなっていた。

そこで参考資料にもあるように「学習に取り組む姿」や「授業で学ぶ姿」などについて具体的に振り返りができている生徒を紹介した。

そうすると、10月1日の振り返りでは仲間の考えに共感した振り返りが書けるようになった。また、記入の仕方前よりも具体的になり、彼が「どんなことを考え」「どんな方向で学習を進めているのか」ということを把握できるようになった。

そこで、彼に「仲間の意見をさらに積極的に取りこんでいこう」とアドバイスをしたところ、彼の学習に対する姿勢にも変化が見られ、仲間の意見のみを参考にするのではなく、自分の意見も仲間に広めることができるようになった。

また、自分が分からないことに対して納得がいくまで追求する姿



# 図書館での学習を終えて

一年B組 名前前へ

次の時間、図書館での調べ学習の成果を全体で交流するのですが、そこで……

1 自分が調べた作品を一つにしぼるとするならば、  
(たぐさんの作品を調べた人は答えてください。)

書名  
風月旅

作者  
星野富弘

2 その作品から、どんなことを思い(考え)ましたか。  
また、その作品から発見したことはありますか。  
(「命の」)ということに関わって書ける人は、今までの自分の「命」に対する考え方と比較して書けるといいですね。

自分と星野さんの「命」の思いは、  
少くも違うな。せめて自分は命のことを  
「命」と考えたことか。なにかから  
「命」と自分「命」を比べて「命」  
かいていっている。

3 この学習を終えて、作品の内容に関わって疑問に思っていることがあれば書いてください。  
疑問をばさばさこの学習では星野さんの詞を  
読んで見ると「命」と「命」を比べて「命」  
かいていっている。

③生徒に学習の方向付けをするために  
今回「命の尊さ」というテーマで学習していく中で、生徒にこんな力を付けてほしかった。

- 話すこと・聞くことに関わって
- ・ 根拠をはっきりとした自分なりの意見をいうことができる。
  - ・ 仲間の意見に自分の考えを関わらせながら話し合いに参加することができる。
  - ・ 相手の立場や受け取り方を考えて話の効果を確かめることができる。
  - ・ 話の立場や根拠を考えながら内容を的確に聞き取ることができる。
- 書くことに関わって
- ・ 自分の経験したことや、学んだことを生かして表現することができる。
  - ・ 目的や場面に応じて効果的な話題や素材を選び出すことができる。
  - ・ 調べ学習から得た情報を仲間伝わりにやすいようにまとめることができる。

読むことに関わって

- ・自分に必要な情報を収集することを目的として読むことができる。
- ・仲間の作品、教材を自分の意見と比較しながら読むことができる。また、その思いを受容することができる。
- ・表現の仕方や文章の特徴に注意して読むことができる。

興味・関心・意欲に関わって

- ・自分の意見を仲間との交流の場に積極的に伝えることができる。
- ・自分に合った資料・情報を取り出すことができる。
- ・「命の尊さ」について、自分なりの考えを持つことができる。

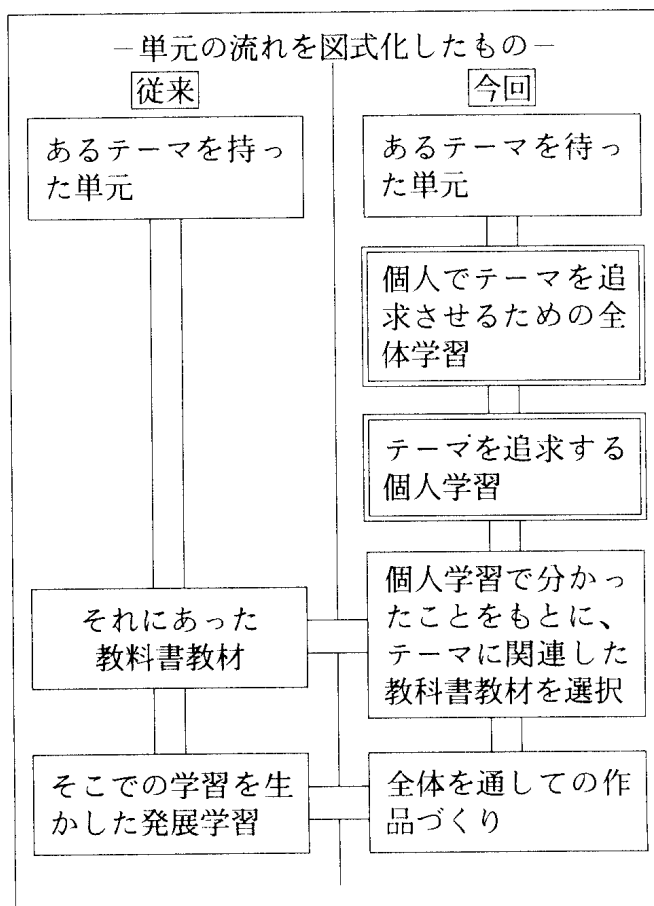
そのために、私が従来行ってきた学習計画とは違った形式で学習を展開した。(下図)

今回このような単元の流れとしたときに大切にしたこと、次の

①②③の三つがある。

- ① ガイダンスプリント (資料3) の配布。
- ② 全体学習で使用した教材

—単元の流れを図式化したもの—



③ 「国語通信」によるアドバイス

学習を始める前にガイダンスプリントを配布することにより、これからどんなことを学習していくのかということ意識させる。また、個人学習で「どのようにプリントをまとめたらいのか」「どんな言葉からどうやって考えを深めていくのか」といったことを学習しやすいような教材を選択し、「国語通信」によって授業時間内の指導以外の部分を補った。



(資料3)

# 「命の尊さ」についてのガイダンスプリント

## 学習目標

- ・「矢沢 宰の詩」や図書館での資料、そして「大人になれなかった弟たちに・・・」の中に書いてあることから、「命の尊さ」について自分なりの考えを持つ。
- ・その考えを「詩」で表現できるようにしよう。
- ・自分が「これ、おもしろいな」と思える本に出会う。
- ・自分の考えを積極的に交流しよう。
- ・仲間の考えを自分の考えに取り込めるような貪欲さを持つ。

学 習 内 容		こんなことを学んでください
部	一	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「命の尊さ」についての学習の計画を知る。</li> <li>・「光る砂漠」(矢沢 宰著)を読んで作品の読み方を学ぶ。</li> <li>・図書館の本の中から、「命の尊さ」に関わる本を探す。(図書館にて)</li> <li>・図書館で調べたことをみんなで交流する。</li> <li>・一部を終えて「命の尊さ」に対する自分の考えをまとめる。</li> </ul>
部	二	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の「大人になれなかった弟たちに・・・」をつかって、戦争という状況の中で生まれ、そして亡くなった「命(ヒロユキの命)」について、母・僕・はどんな思いでいたのか。</li> <li>・作品のアプローチの仕方を学んでください。</li> <li>・「おもしろそうだ」と思えるような本を探そう。</li> <li>・自分の考えの参考となるような所を探そう。</li> <li>・友達と、交流しながら探そう。</li> <li>・一部を終えて、自分の「命の尊さ」に対する考えを、残せるようにしよう。</li> <li>・一部で学習したことを生かして、この作品を読み比べられるといいですね。</li> <li>・僕、母、ヒロユキの思いにせまることができたらいいですね。</li> </ul>
部	三	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「命の尊さ」についての自分の考えを「詩」にまとめてみる。</li> <li>・さらに良いものとするために、自分の詩を仲間と交流する。</li> <li>・出来上がった作品を応募する。</li> <li>・今まで学習してきたことをまとめて、今自分が考えていることを「詩」にしてみよう。</li> <li>・(今まで残してきたノートがここで生きてきます。)</li> <li>・仲間の「詩」を読んで、「いいな」と思えるところは、自分の作品に積極的に取り入れていこう。</li> </ul>

(2) 仲間との交流の中から表現を工夫する

K君は、今回詩の創作の中で、一番やる気に満ちあふれていた生徒であった。普段、学習に対して積極的な姿があまり見られないほうであるが、詩の下書きを一番最初に私の所に持ってきたのは彼だった。「先生こんでどうやる？」と不安そうに質問してきたのだが、そこでは彼にあえてアドバイスはしなかった。

その理由は、前に失敗している交流学習を今回ここでもう一度やってみようと思ったからだ。今回は前回の反省を生かし以下のようなことに気を付けて交流学習を行なった。

- 交流の必然性をねらって —
- 詩のなかの表現ということを中心に交流学習を行なうようにする。
- 交流資料について —
- 生徒が創った詩を大まかなテーマごとに分類する。(今回の交流資料では大きく四つに分類)
- 交流資料には、詩の内容のことについてはあまり触れず、表現の工夫のみを記入する。
- また、仲間の作品に触れることが自分の詩の表現を工夫することにつながるようなアドバイスを付け加える。

• 具体的に何をすればいいのか明記する。

— 交流資料以外には —

• 下書きのプリントには自分が作った詩のどこに表現の工夫(今回では表現技法など)がこらされているのか事前に赤ペンでチェックを入れておく。

— 交流相手を決める際に —

• 交流する際の支点となるような生徒をあらかじめ決めておく。(今回は優れた作品を創った生徒) その作品が多く仲間と交流できるように交流相手を決定した。

彼の熱意に応えるためにも、今回の交流では何かしら生徒の作品に変化した所や、交流の際「何をすればいいの？」と立ち止まる生徒がいないようにだけしたかった。

K君の交流の様子

交流学習の際に使う資料には

(資料4)

Kくん

動

続きを感じさせる作品のおわり方がとっても上手です。また、書き出しの表現もいいですね。

逆の立場から表現している○○くんの作品から必死に逃げて  
いる様子の表現を考えてみて下さい。

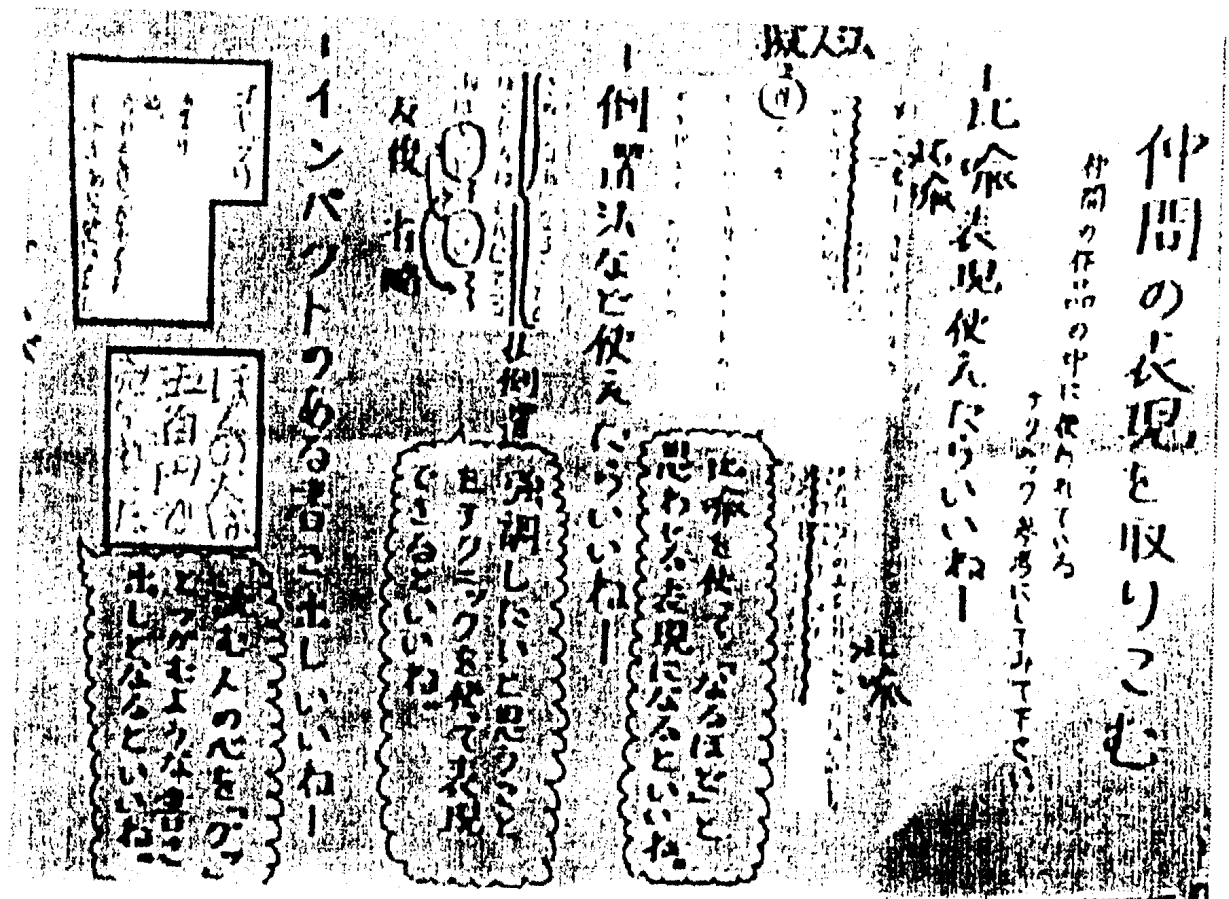
また、下書きのプリントには詩のなかのどの表現が指摘されてい  
るのかということだけ明記しておいた。

交流学习の最中、K君が私の所にきて「先生、最後の所『・・・』  
にしたほうが、なんか余韻が残ると思わん」と質問してきたので、  
「それも続きを感じさせる一つのテクニックやね。自分がそのほう  
がいいと思ったら取り入れてみてもおもしろいと思うよ」と答えた。  
また、「なかなかゴキブリの逃げる様子がうまくいかんのやわ」  
と質問してきたので、○○君の作品や、黒板に貼ってある資料を参  
考にするといよいよ答えた。

交流の最中K君が自分の席に座っている姿は全くなかった。自分  
から仲間の作品を見にいき、「これ、おもしろい。テクニックやな」  
など話ながら、自分の作品を見せている姿が非常に印象的であっ  
た。

### 全体学習において

ここでは、「命の尊さ」というテーマを個人で追求するために、  
「どのように学習していくのか」「どんな言葉に着目していくのか」  
「プリントのまとめ方」などを中心に学習した。



月日

学習のふりかえり

9/29

矢沢 宰さんは、8才に病気に罹りまして21才までがねばって生きていて命は保  
 けられたいと思いましたが、それを14才から詩を聞いていて日記も書いていて  
 明日また生きようと思っていて、あ、私は病気に罹ってはいないけれど、病気が  
 ようにがんばっているから死すぞい。矢沢さんは、病気でだけ病気がなんかに負けない

10/1

今日は一回も発表をしないままかかっていたけど、みんなの意見を聞いていろいろな  
 ことがあつた。  
 矢沢さんの「命に対する考え」がこの詩じよくわかった。詩の感じ方にまちがちな人であり  
 その詩から感じにたもつてそのまゝ表現で

10/6

キキキの詞では、キキキという気持ちが大変か、たけい、早春ではキキキはんだか  
 死んでもいいよ、キキキという気持ちが大変か、たけい、早春ではキキキはんだか  
 ている。けれど、私は矢沢さんは、キキキという気持ちが大変か、たけい、早春ではキキキはんだか  
 春が山桜をくれたこと、キキキという気持ちが大変か、たけい、早春ではキキキはんだか

彼女は最初、矢沢宰の生涯について話をしたとき、そのことに興味を持った振り返りが書いていたもの、「ききょう」という詩を使って学習したとき、「今日は一回も発表をしないまま終わってしまった。けど、みんなの意見を聞いていゝんなことが分かった」という振り返りを書いてきた。そこで、「早春」という詩を学習している最中に、「どんなことがこの一時間の中で分かるようになったのか具体的に書けるようになるといいね」というアドバイスをした。

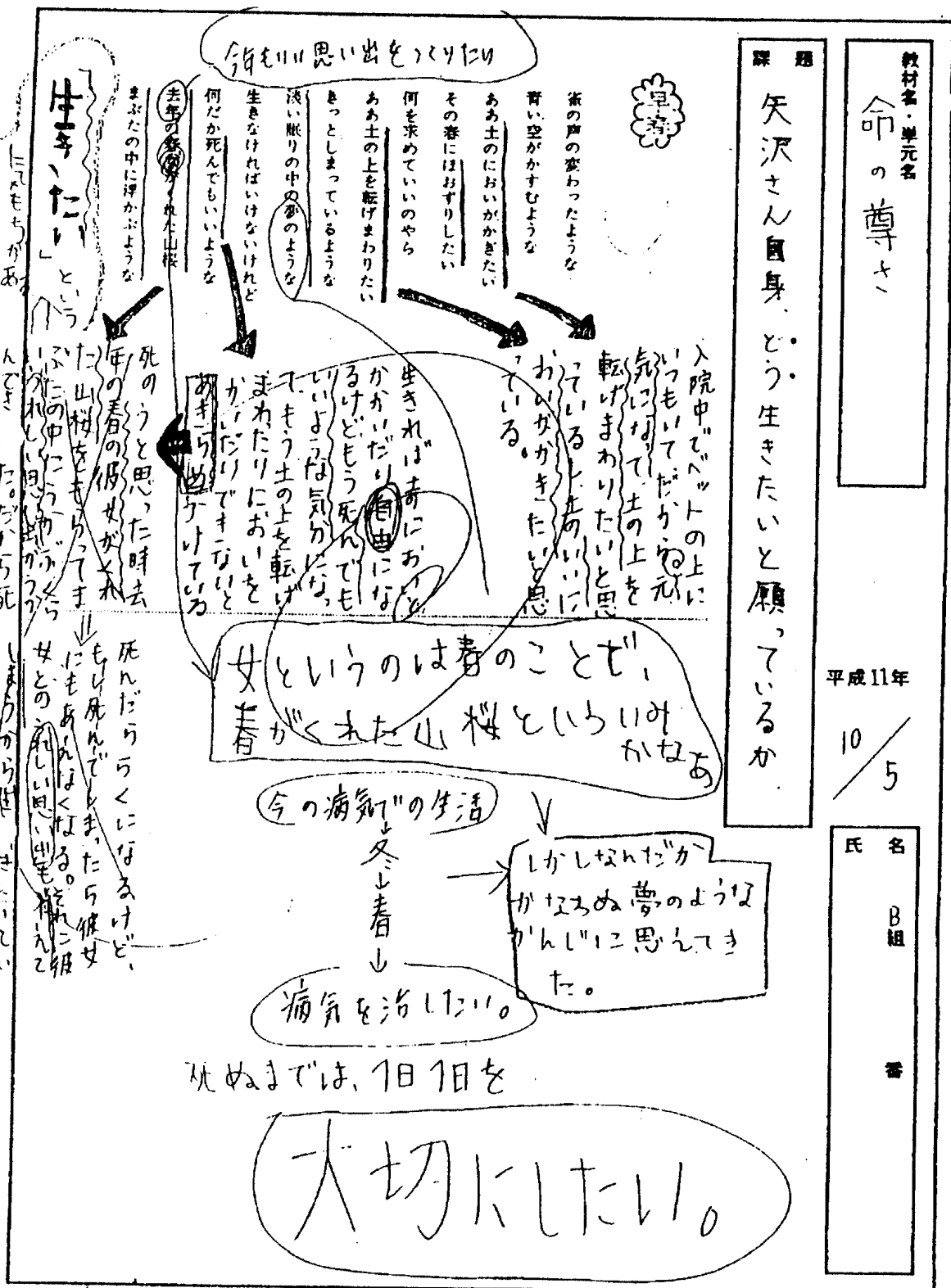
その際、教科書の文章の中では「命の尊さ」について強く語られているものがなかったため、矢沢宰氏の「光る砂漠」中から、「ききょう」と「早春」という作品を選び、矢沢氏の「命」に対する考え方を見ていった。

教材名・単元名  
命の尊厳

課題  
矢沢さん自身、どう生きていたいと願っているか

平成11年  
10/5

氏名  
B組  
番



上のプリントはその時の彼女のプリントであるが、自分の考えをプリントの上段に書き、仲間の考えを下段に書いている。最初このプリントを見たときに、「なぜ、彼女は自分の意見に×印を付けているのか分からなかった」しかし彼女の振り返りの中に「女というのは彼女だと思っていたけど、○○君の意見を聞いて春の季節だから春が山桜をくれたという意味で納得した。」という言葉が書いてあった。

こうやって、仲間の

意見をそのままうのみにするのではなく、納得して自分の意見を変えることができた彼女は素晴らしいと思った。

### 個人学習の成果

命の永遠さに気付く！

Gさんは、全体学習の中で矢沢幸の詩を通して、こんな振り返りをしていました。

「ききょう」や「早春」を通して、私は矢沢さんの病気の人生、その詩から分かる元気に生きたい、自然とふれ合いたい・でも、あきらめてしまふ。そんなことを考えて命というものがとても大きな存在だということ、「生きる」ということがなるとなく分かった。

このように、詩のなかに込められた作者の生きることに對する並々ならぬ思いや、今まで生きてきた中で培われてきた「命」に對する思いを読み取ることができていた。作者の人生観に触れるなかでGさんが共感する部分があったからである。

そんなGさんであったが、図書館での学習では始めどんな本を読もうか迷い、手に取った本をパラパラと読んでいた。そこで、彼女に「ここに並んでいる本は人間の命のことについて書かれた本ばかり

りじゃないよ。」と、立松和平、伊勢英子「山のいのち」という本を紹介した。

### 図書館での学習を終えての振り返り

#### 図書館での学習を終えて

1年B組 夕白前

1 次の時間、図書館での調べ学習の成果を全体で交流するのですが、そこで……

自分が調べた作品の一つにしぼるとするならば、(たぐさんの作品を調べた人は答えてください。)

書名  
山のいのち

作者  
立松和平 & 伊勢英子

2

その作品から、どんなことを思い(考え)ましたか。また、その作品から発見したことはありますか。(「命の」ということに関わって書ける人は、今までの自分の「命」に對する考え方と比較して書けるといいですね。)

今までの私の命に對する考えは人間の生と死、「いのち」病弱などというイメージでして、でもこの本を通して山、川、水を通して、その中で小さな生き物たちが生きて自分たちが「命」のため仲間を殺すこともある。でもそれは自分たちが「命」のため仲間を殺すこと、生にはまだ「命」をなくさないで生きていく。それが山の命だと思えました。

その際に用いた机列表

<p>〇〇くん 母がうる"を折るのは「あの子 の心がおかるような気がする」 という表現に目を向けること ができています。</p> <p>「わたしのいもうと」松谷みゆこ</p>	<p>〇〇くん なぜ妹が、学校にこれなく なれたのかを、矢印をうまくつ かってあらわしています。 いもうとの気持ちについて考えら れるといいね。</p> <p>「わたしのいもうと」松谷みゆこ</p>
<p>〇〇さん ヒロキに対する「すなわち」 という言葉の意味は、母・僕そ れぞれに違うということが わかりました。 梶谷加年</p> <p>「大人になれなかった者たちに……」</p>	<p>〇〇くん 星野さんは、すごく花が好 きで、花と会話しているみた いに感じました。</p> <p>「風の旅」 星野富弘</p>
<p>〇〇さん 野坂さんは「死んでも願いとが は残る」といったかったのかな。 でも「残る」という部分は、私 の考えとは違うかも……。</p> <p>「焼けぬのおくの木」野坂昭如</p>	<p>〇〇くん 「命」というものは人も植物も 動物もみんな持っていて、本当 に大切なものだということが わかった。</p> <p>「風の旅」 星野富弘</p>

図書館での学習を終え、それまでの「命」に対する見方だけではな  
く、別の見方をする事ができるようにもなった。

個人学習の成果を交流する

個人で学習したことを、お互いの意見として交流し合う中でさら  
に「命」に対する見方を深めることができないだろうか。そのよう  
な思いから、全体での交流の際に発表会形式の交流をやめ、机列表  
をもとにした交流学習を計画した。

この交流資料を作成した際に気を付けたことは、

- 1、誰がどんな作品を選んでいるのか。
- 2、その作品からどんなことを感じているのか。

以上のようなことである。この、資料を用いて交流学習を行なっ  
たわけであるが、思っていた以上に学習効果が上がらなかった。

交流学習の際の生徒の様子を見ると、この資料を使って「何  
を交流すればいいのか」といった学習の必然性が感じられていない  
様子であった。また、生徒の意見を一覧にしまったことによっ  
て、授業の中での生徒の動きをかえって抑制してしまった感じでも  
あった。

せっかくの素晴らしい意見までも教師側で簡単にまとめすぎたこ  
が、ここでの大きな反省点として残った。

#### K君の作品の変化

教材名・單元名

命の尊さ

平成11年

10/27

氏名

り組

ゴキブリ

かけかけ

ぬっ

今日もあいつがやってきました  
しぶといあいつがやってきました

かけかけかけ

かたすにハエたき

ねらいをさためて

バチ

それでも

まだ生きている

まだ第一動き

にびている

カサカサカサカサ

バチバチバチ

ゴキブリ

一年B組

カサカサッ

ぬっ

今日もあいつがやってきました

しぶといあいつがやってきました

カサカサカサッ

片手にハエたき

ねらいをさためて

バチ

それでも

まだ生きている

カサカサカサカサ

逃げている

バチッ  
バチッ  
バチッ  
バチッ



前頁の作品の上が下書きで、下が清書である。下書きと清書での変化を項目ごとに見てみたいと思う。

#### i 省略による表現の変化

下書きのなかでは、ゴキブリが一度退治されかけてその後逃げる様子を、「それでも まだ生きています すばやい動きで」にげている」としているのに対して、清書では「それでも まだ生きています カサカサカサカサ 逃げています」と「すばやい動き」という言葉が省略しているのである。

K君が言うには、ゴキブリの素早く逃げる様子をくどくどと説明するのではなく、「カサカサカサカサ」という擬音語だけで現すことによって、ゴキブリの「必死さ」や退治されてしまうのではないかという「不安さ」を表現しようとしたのである。

#### ii 文字の誇大化による強調

清書のなかに二回出てくる「バチッ」という言葉、下書きのなかにもこの言葉はあるが、明らかに文字が下書きよりも大きくなっている。

この強調に対してもK君なりの意図がある。一回目の「バチッ」では退治できなかった悔しさを、二回目の「バチッバチッバチ」につなげている。さらに「バチッ」と「バチイ」という二つの言葉を使い分け、最後の「バチイ」という言葉にだけは、渾身の力を込

めているところを表現したかったのである。

#### iii 余韻を残すための表現

清書では下書きのなかになかった「・・・」という表現が付け加えられている。「余韻を残すため」とK君は言っているが、そこには下書きにはなかった「読者への想像」が含まれているのではない。読者は最後の「・・・」の部分に「退治できたのかできなかったのか」という思いをめぐらせ結末を考えさせるのである。

K君が言うには、本当は退治できなかったのであるが、ここではそのことをあえて明記しないほうがいいのではないだろうか。

以上の i ii iii のようにK君なりに意図のある変化を清書では加えている。表現技法的に、良くなったのかということについてだけ言えば、それほどではないかもしれない。しかし、今回彼が一生懸命になって自分の詩を「変えよう」「さらに良くしよう」としていることがうれしく、この授業を通して大きく変化したのはK君自身なのではないだろうか。

## 4、成果と課題

### (1)実践の成果

・学習計画が17時間と、約1ヵ月におよぶ長い単元だったにもかかわらず、生徒の意識が途中で切れなかったことは成果である。

・ふり返りを毎時間集めたことにより、生徒が今、何を考えているのか、どんな所でつまづいているのかが、教師側で把握でき、素早い対処ができたことは良かった。

・全体学習で学んだ学び方を生かして、図書館での個人学習ができていた。また、司書の先生にご協力頂き資料の数で、生徒が困ることがなかったことも良かった。

・交流の際に資料の相手のみならず、自分の興味関心の引かれる作品を創っている仲間の所へ、資料を参考にしながら行けたのは、私の予想をはるかに越える生徒の動きであった。

## (2)今後の課題

・第二部から第三部への学習のつながりに必然性が弱く、第一部・

第二部での学習を生かした詩作となっているものが少なかった。

・一つの単元であるが、三部の小単元で構成されているため、学習計画が非常に長くなりすぎてしまった。

・学習を終えた後で、学習する前と比べて「命の尊さ」に対する考えが、どのように変化したのかということ調査すれば良かった。今回はそれがなかったために、単元のまとめが不十分になってしまった。

## 5、おわりに

今回、この実践を行なっていく中で、司書の先生には並々ならぬご配慮をして頂き心から感謝している。各関係機関よりたくさんの本を借りて頂き、生徒の要望にあう本を揃えて頂いたのが、個人学習での成果となったのではないか。

また、難しいテーマにもかかわらず、主体的に学習に取り組んでくれた生徒にも感謝している。

このように、私自身がたくさんの人たちに支えられていることが、今回の実践を通して改めて感じさせられ、これからもその人たちの期待を裏切らない実践をしていくことが、必要なのだということも感じた。

## 《実践記録》

「学ぶことに喜びを感じさせるための  
の学習活動の工夫」を読んで

高橋 弘

実践記録「学ぶことに喜びを感じさせるための学習活動の工夫」  
を書いた内田誠司さんは、本学で国語を専攻し、平成十年三月に卒